



選挙に参加する意義を見出す授業づくりを目指して

—「民主社会と政治参加」の授業実践例—

神奈川県立横浜瀬谷高等学校 二見 遼介 (ふたみ・りょうすけ)

—使用教材—
『高校生の公共』



1 はじめに

現行の学習指導要領が高等学校において学年進行で全面実施されてから、3年が経過しようとしている。新たな科目の一つとして登場した「公共」では、各校が学習指導要領の目標を踏まえた授業づくりに取り組んできたのではないだろうか。

筆者自身も授業を構想するにあたり、各単元における目標を踏まえた適切な主題を設定している。主題に関連する基礎的・基本的な知識および技能を身に付けながら、生徒同士が協働して学びを深め、まとめや振り返りを通して設定された課題に向き合っていく構成をベースとして授業を組み立てることで、「公共」が育成を目指す資質・能力を身に付けられるような授業づくりを模索してきた。

本稿では、その一例として「民主社会と政治参加」の授業実践例について取り上げる。また、その学びを踏まえて実施した実践的な学びである、模擬選挙についても紹介したい。

2 「民主社会と政治参加」の学習上の位置付け

「民主社会と政治参加」の授業を構想していく上で、どのようなことに留意していく必要があるのか。『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 公民編』（以下、『解説』）には、「メディア・リテラシーなど、主権者として良識ある公正な判断力等を身に付けることが民主政治にとって必要であることを理解できるようにすること」や、「選挙権年齢が満18歳以上であることの趣旨を踏まえて、間接民主政治における参政権の行使である選挙の意義や、政治的無関心の増大がもつ危険性などについて考察し、理解できるようにすることが必要」とある。これらのことを踏まえ、“選挙に参加する意義”や“政治的無関心”をテーマとした授業を構成していくことが必

要となる。また、「身近な生活に関わる事例を用いることにより、地方自治に対する関心を高める」ことや、『政治参加と公正な世論の形成、地方自治』については関連させて取り扱い、…民主政治の推進における選挙の意義について指導すること（内容の取扱い）とされている。この趣旨を踏まえ、授業を構成するにあたり、生徒が選挙について身近に感じることができる題材を活用していくことも重要となる。

さらに、テーマについて生徒が諸資料を活用しながら設定された主題について学びを深めていく過程において、メディア・リテラシー等の重要性に気付くことができるような授業展開としていくことも意識したい。

3 授業の主題と学習目標

以上のことを踏まえ、授業の主題と学習目標を次の通り設定した。

〈主題〉

自分が住む選挙区の候補者は、どのような政策を掲げているのか？

〈学習目標〉

- ・ 諸資料を読み取り、選挙に関わる現状を把握することを通して、選挙に参加することの意義について考えを深める。
- ・ 選挙制度の仕組みやルールについて理解する。
- ・ 主題について、選挙公報などを読み取り、自分が関心のある分野を踏まえてまとめる活動を通して、選挙への関心を高める。

題材については、なるべく生徒が選挙を身近に感じることができるよう、自分が住む選挙区の立候補者に着目させた。そして掲げられている政策について自分が関心のある分野を踏まえて比較していく中で、選挙への関心を高めることができるようにした。

学習目標については、「選挙に参加する意義の理解」、「選挙制度の理解」、「選挙への関心を高める」ことをメインとして据えた。なお、「政治的無関心の危険性」や「メ

ディア・リテラシーの重要性」については、授業を展開していく中で、生徒自身が気付きを得ることができるような構成としている。

4 授業の展開(50分×2コマ)

(1) 選挙に参加することの意義について考える【15分】

① 国政選挙における年代別投票率について、令和8年度版『高校生の公共』(以下、教科書)のグラフから、「投票率が高い年代・低い年代・10代の投票率の推移」等について読み取らせ、そのようになる理由について個人で考えさせる(図1)。その後、ペアワーク等で自身の考えを他者と共有する。

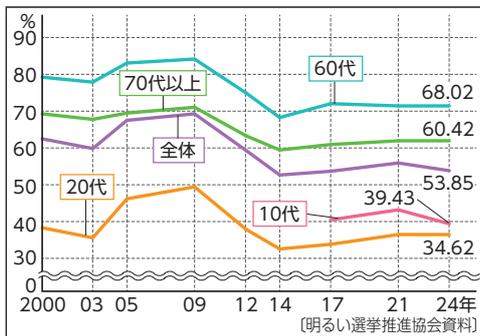


図1 2 衆議院議員選挙の年代別投票率の推移『高校生の公共』p.102

② 現状が続くと、どのようなことが起こるかについて個人で考えた上で、選挙に参加することの意義について他者と意見交換する。その際、「政治的無関心」が増大することによる危険性」の視点から生徒に問いかけることで、考えを深めることができるよう工夫する。

(2) 選挙制度の仕組みやルールについて理解する【20分】

① 衆議院と参議院の選挙制度の違いについて、教科書の本文や図表等から読み取り(図2)、ワークシートにまとめる。

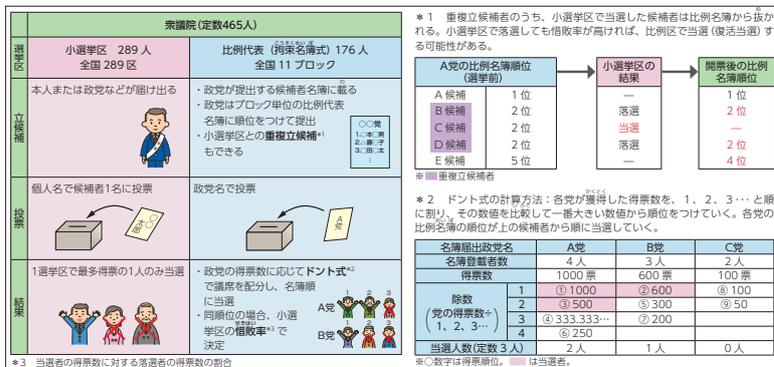


図2 4 衆議院の選挙制度『高校生の公共』p.103

② 「一票の格差」に関する教科書の図やグラフ等に注目させ、その問題について把握させる(図3)。
③ 高校生向け副教材「私たちが拓く日本の未来」(総務省・

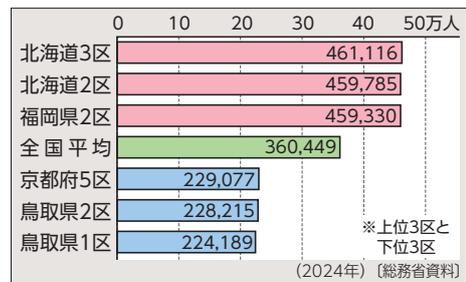


図3 5 衆議院の選挙区別有権者数『高校生の公共』p.103

文部科学省)の内容を踏まえて作成した、選挙に関する〇×クイズに取り組むことで、高校生が初めて選挙に参加する時に疑問を抱きそうな事例について把握し、選挙に参加することのハードルを下げる。

(設問例)

- ・部活動を理由として、期日前投票を利用することはできる? (〇)
→理由があっても当日に投票に行くことができない人は、期日前投票を利用することができる。
- ・投票所入場(整理)券を失くしてしまった。もう投票することはできない? (×)
→二重投票を防止するために投票所入場(整理)券が事前に郵送されるが、これを紛失してしまっても、本人確認ができれば(生年月日や住所など)、投票することができる。
- ・選挙運動は、選挙権のあるなしにかかわらず、全ての高校生ができない。 (×)
→満18歳になっていれば選挙運動をすることができる。ただし、満18歳未満は一切の選挙運動ができない。同じ高校生であっても、年齢により扱いが異なるので注意が必要。
- ・18歳になっている人が、インスタグラムやXなどのSNSを使って、応援したい候補者の情報を流した。これって大丈夫? (〇)
→満18歳以上の者は、選挙運動期間内(公示日・告示日~投票日の前日)であれば可能。ただし、電子メールを利用した選挙運動は候補者や政党のみに限られ、満18歳以上であってもできない。
- ・「今度昼飯おごるから、選挙では〇〇さん(〇〇党)に投票してね。」と友人に言われた。これってあり?(×)
→選挙運動期間中、期間外とも、特定の候補者を当選させるために、飲食物などの提供は利益供与の申し込みにあたり、買収罪となる。この場合、利益を受けた側も罪となる。

(3) 自分が関心のある分野について整理する【15分】

① 教科書 p.104 ~ 105 「投票先はどうやって選ぶ?」にある、「1 選挙の主な争点と具体例」を活用して、自分が関心のある分野に優先順位を付ける(次頁、図4)。
② 優先順位を付けた分野について、具体例を参考に身近な事例や最近見聞きしたニュースの内容等をまとめることで、関心のある分野について当事者意識を高める。

争点	具体例
憲法改正	・9条(平和主義)
経済	・景気対策 ・財政再建 ・消費税率
社会保障	・年金制度 ・医療費 ・子供の貧困
働き方・雇用	・雇用の安定 ・女性の働き方 ・賃金
外交・安全保障	・周辺国との関係 ・在日アメリカ軍基地
エネルギー	・原子力発電 ・脱炭素社会
教育	・教育の無償化
少子化対策	・保育所の充実
防災・減災	・自然災害への備え
地方自治	・地域活性化
その他	・国会議員の定数・歳費 ・環境問題への対策 ・若者向け政策

図4 1 選挙の主な争点と具体例『高校生の公共』p.104

(4) 選挙公報を読み取り、表にまとめる【20分】

自分が住む選挙区がどこかを把握した上で、選挙公報から、各候補者がどのような政策を掲げているのかについて、自分が関心のある分野を中心に読み取り、表にまとめる(図5)。

※「選挙公報とは何か」「なぜ選挙公報を活用するのか」について説明することで、「メディア・リテラシーの重要性」について、生徒が気付きを得ることができるよう工夫する。

政党名または候補者名	()	()	()	()
関心があるテーマ①				
「 」				
関心があるテーマ②				
「 」				

図5 ①自分の関心があるテーマについて政策をまとめる表『高校生の公共』p.104

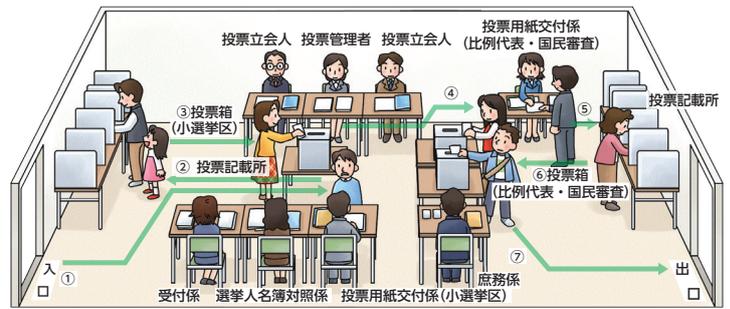
(5) グループで共有する【10分】

自分が関心のある分野や選挙公報から読み取った内容等についてグループワークで共有し、ワークシートにまとめる。

※生徒の居住地にもよるが、グループによる共有の機会を設けることで、選挙区の違いによる候補者の相違、関心のある分野の違いなど、さまざまな視点から選挙に関する情報に触れることができる。

(6) 投票したい候補者を決める【10分】

教科書 p.104 ~ 105 「投票先はどうやって選ぶ？」にある、「いざ投票！投票に向けて最終確認」を活用しながら投票の仕方や注意点等について確認した上で(図6)、グループで共有した内容も踏まえて投票した



衆議院		参議院	
小選挙区	比例代表	選挙区	比例代表
候補者名	政党名	候補者名	候補者名か政党名

図6 (上) 3 衆議院議員選挙の投票所の例、(下) 5 衆議院議員選挙と参議院議員選挙の投票の違い『高校生の公共』p.105

い候補者を決め、その理由をワークシートにまとめる。

(7) まとめ・振り返り【10分】

これまで学習したことを踏まえて、次のA~Cから1つ設定しその内容について文章でまとめる。

- A：日本の選挙制度にはどのような課題があるか。
- B：あなたが18歳になり実際に投票することになったら、候補者や政党を選ぶ際に意識したいことは何か。
- C：選挙に参加する意義は何か。投票率の現状なども踏まえて、あなたの意見をまとめなさい。

※まとめとして位置付ける問いは、授業を展開する中で、どの項目を重視していくかに応じて設定していく必要がある。Aを設定した場合は、「一票の格差」等を踏まえた記述ができているか、Bを設定した場合は、「メディア・リテラシー」等を踏まえた記述ができているか、Cを設定した場合は、「政治的無関心」等を踏まえた記述ができているか、を見取ることが想定される。

5 評価について

以上のような授業を展開した場合、評価規準および評価方法については、次のように設定することができる。

	評価規準 (評価方法)
知識・技能	国政選挙における投票率の現状、選挙制度の仕組みやルールについて、特徴や課題等を踏まえて理解を深めている。(単元テスト)
思考・判断・表現	自分が関心のある分野を踏まえて諸資料の内容をまとめた上で、自らの意見や主張を分かりやすく表現している。(ワークシートの記述)
主体的に学習に取り組む態度	選挙に参加することの意義について、学習した内容を踏まえて考えを深め、主体的に社会に関わろうとしている。(ワークシートの記述)

6 模擬選挙の実施

先述した授業を事前学習としながら、模擬選挙を実施することも効果的である。『解説』では、「…選挙管理委員会などの専門機関の助言を得ながら、模擬選挙を実施することなどが考えられる。模擬選挙では、選挙に関わる情報などを収集し、読み取り、政策を比較した表を作成したり、大項目の「A 公共の扉」で身に付けた考え方を活用し、自分の意見に近い具体的な政策を選択したりすることにより、投票する際の判断の手掛かりを身に付ける。また、模擬選挙を振り返り、他者と協働して立案・提案することの大切さについて理解するとともに、…」とされている。『解説』に記載されている通り、外部機関等との連携の一環として選挙管理委員会に授業の協力を依頼し、出前授業を実施していただくこともできるだろう。一方で、外部機関等との連携が学校の実情等により困難な場合は、投票箱や記載台を選挙管理委員会から借用した上で模擬選挙を行うだけでも、よりリアルな体験に近づけることができる。

本校でも、2025年7月20日に投開票日であった第27回参議院議員通常選挙に合わせて、全校生徒を対象に模擬選挙を実施した。模擬選挙の会場は、学年ごとに複数箇所設置し、会場の運営（いわゆる投票立会人）は、有志の生徒が行った。模擬選挙の実施の詳細についてはここでは割愛するが、先に紹介した授業を事前学習として行い、模擬選挙を実施し、実際の投開票日の後に「模擬選挙と実際の選挙の結果を比較し、なぜそのような結果となったのか」について、生徒にレポートを提出させた。以下に、生徒が記入した内容の一部を紹介する。

- ・実際の選挙と模擬選挙の当選者の違いは、投票している世代の違いによるものであると考えた。実際の選挙では、投票している人の年齢層が高いため、功績があり、安定感のある政党や候補者に票が集まるが、高校生はSNSなどの影響を受けやすいので、SNSで注目されている政党や候補者に票が集まっていると感じた。
- ・投票結果を比較することで、年齢層の違いにより重視する政策が異なるということを実感した。若年層の投票率が上がれば、実際の選挙の結果も違ってくるのではないかと考えた。
- ・実際の選挙と模擬選挙の違いを比較することで、選挙が自分たちの生活のあり方を決めていく、重要な制度であると感じた。将来、自分も1票を投じたいと思った。
- ・選挙公報の内容を比較してみると、実際の選挙で当選した候補者が掲げている政策は、より具体的で実現できそうな政策が多く、模擬選挙で当選した候補者が掲げている政策には、長期的な目標が多いように感じた。



写真 本校の模擬選挙での投票の様子

7 最後に

「高校生の社会参加に関する意識調査報告書－日本・米国・中国・韓国の比較－」（国立青少年教育振興機構、令和3年）によると、「日本の高校生は、「社会問題は自分の生活とは関係ないことだ」と考えている（「全くそう思う」「まあそう思う」、以下同様）割合が2割未満で中国に次いで低いが、「私個人の力では政府の決定に影響を与えられない」「政治や社会より自分のまわりのことが重要だ」「現状を変えようとするよりも、そのまま受け入れるほうがよい」「政治や社会の問題を考えると面倒である」と考えている割合がいずれも4か国中最も高い。反対に、「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」「高校生でも社会をよくしていける」「国のために尽くしたい」と考えている割合がいずれも4か国中最も低い」ことが調査結果により分かっている。

こうした状況を好転させていくためには、日頃の授業を通して、生徒が地域や社会の諸課題に目を向け、その解決に向けて他者と協働しながら考えを深めた上で、模擬選挙をはじめとする実践的な学びの機会を設けていくことが必要になるのではないか。“生徒と社会とを授業等を懸け橋にして学校がつなげていく”という意識を教員が持ち、不断の授業改善をしていくことで、生徒の積極的に社会に参画しようとする態度等を着実に育てていくことができるはずである。こうした意識を持ち続けることが、教員に求められているのではないだろうか。

※「民主社会と政治参加」の授業を構想するにあたり、「政治的中立性をどのように担保していくか」という視点は欠かすことはできない。このことについては、「私たちが拓く日本の未来【活用のための指導資料】」（総務省・文部科学省）の「指導上の政治的中立の確保等に関する留意点」等を参照していただきたい。